

# 知って いるように 知らない 英単語

岩間直文 著



朝日出版社

## 岩間直文（いわま・なおふみ）

応用言語学者。北海道浦幌町に生まれる。東京外国語大学フランス語科卒業。

主な著書に、

『道具としての英語 暗記しないで覚える英語』

『道具としての英語 暗記しないで使える英熟語』（以上宝島社）、

『話したくなるフランス語』『会話で始めるフランス語』『コミュニケーションフランス語文法』（以上朝日出版社）などがある。

## 知っているようで知らない英単語

---

1997年12月25日 初版第1刷発行

著 者 岩 間 直 文

発行者 原 雅 久

---

カバーデザイン 小島トシノブ

イラスト あまのあきこ

---

発行所 (株)朝日出版社

101-0065 東京都千代田区西神田3-3-5

電 話 03(3263)3321

F A X 03(3261)0532

振 替 00140-2-46008

---

印刷所 壮光舎印刷株式会社

---

ISBN4-255-97037-8

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替えます

知って  
いるように

江苏工业学院图书馆  
藏书章

岩間直文

朝日出版社

## この本の特徴と利用法

- ◇どこから読みはじめてもかまいません。おもしろそうな項目を拾い読みするのでもいいでしょう。各項目は▶印ではじまり、いちおうそれだけで完結しています。
- ◇もちろん、順に項目をおって読み進めてもかまいません。PARTごとに大きなテーマを設けています。最初からていねいに通読すれば、英単語のイメージをまとめてつかむことができます。
- ◇この本を問題集として活用することもできます。番号つきの英文を和訳問題とみなし、自分の訳文を【和訳と語注】で示されている訳文と照らし合わせてみます。もちろん、いちいち訳文を紙に書いてみる必要はありません。
- ◇PARTごとに、そこで学んだ単語をMINIDictionaryとして辞書ふうにとまとめてみました。記憶や知識の整理に活用してください。
- ◇EXERCISESは、おもに単語を答える問題と英文和訳とからなっています。翻訳に関心のある読者には、紙と鉛筆を手にとって実際に訳文を練りあげてみることをおすすめします。
- ◇例文も含めて、本文中の英文はできるだけ簡潔なものを取り入れました。気に入ったものを暗記しておけば、会話や作文にも利用できるはずです。

笑顔だけで  
僕を見守り  
導いてくれた  
産形万左子さんに捧ぐ。

## まえがき

### —発想を転換してみよう—

英単語に強くなるには、2つの方法があります。

①知っている単語の数を増やす。

②すでに知っている単語の知識を深める。

この2つは車の両輪ともいえるべきものですが、なぜか②のほう  
が不当に軽視されているようです。数だけが問題にされて、知識  
の質や量はあまり問題にされないのです。単語はそこそこ知って  
いるのに、正確に読んだり書いたり話したりできないということ  
はありませんか。原因は、はっきりしています。知識が生半可な  
のです。知っているつもりが、知っていないのです。知識の中身  
が問題になるのは、とくに基本的な単語を使いこなすときです。  
基本的な単語ほど、さまざまな意味や用法やニュアンスを発達さ  
せているからです。

たとえば、**break**や**make**や**take**という基本動詞。これだけを見  
れば、だれだって知っていると思うはずですが、しかし、同じ知っ  
ているというのでも、中学生と英語の先生とでは知っている内容  
に大きな差があるものです。この差は、そのまま英語の実力の差  
となって現われます。だから、知識の内容を考慮しないで、単語  
の数だけで英語の実力をうんぬんするのは、あまり意味がないの  
です。

英和辞典はたいいてい単語の重要度やレベルを、[\*]印を用いて  
示しています。ただこの印は、さまざまにある意味や用法のうち、  
どれとどれに習熟すれば指定の語数レベルに到達できるのかとい  
うことまでは教えてくれません。

おそらくその目安は、入試英語によって示されてきたのではな

いでしょうか。英語の先生は「この単語については、これだけ覚えておけばよい」などとよくいうからです。それはそれでたしかに学習者の指針となるものですが、入試英語という基準は絶対的なものではありません。むしろそれは偏向した基準であるといったほうがよく、普通に英語を読んだり書いたり話したり聞いたりするときには邪魔になることさえあるのです。

入試英語という牢獄から抜け出してみると、英語の基本語彙がどれほど色彩豊かで、自由と活力に満ちた世界であるかがよくわかります。この魅惑的な世界を探究してみない手はありません。というのも、英語の実力が中級どまりになるかどうかは、もっぱらこの探究に乗り出すかどうかにかかっているからなのです。

この本には、あなたが知らないという単語はひとつも登場しないはずですが、しかし、実際に用いられている意味や用法やニュアンスとなると話はべつです。たぶん、知らないというケースが多くなるのではないのでしょうか。そうだとすると、心配は無用です。本書の最大の眼目は、知っている単語をさらに深く知ることにあるからです。それに、知っている単語をさらに深く知るのは、新しい単語を丸暗記するよりもはるかに容易で、しかも知的興奮を与えてくれる作業だということがきつとおわかりになるはずです。

数多くの用例を、英語で書かれた作品から引用しました。用例を集めるために読んだ英文は、ペーパーバックにして3万ページをはるかに超えます。作品を素材として利用した著者というよりも、読書の快樂を与えられた一読者として、作者たちに心から感謝の意を表わしておきます。

# 目 次 と 要 約

## PART 1 動詞に習熟する ----- 7

◇基本的な動詞を取り上げて、その多彩な意味・用法をくわしく検討する。

・ MINIDictionary 27

・ EXERCISES 30

## PART 2 名詞に親しむ ----- 33

◇多義名詞のさまざまな意味を検討するとともに、意味と意味とのつながりにも目を向ける。

・ MINIDictionary 54

・ EXERCISES 57

## PART 3 形容詞に強くなる ----- 61

◇形容詞の意味を正確につかむ練習をする。必要に応じて、英英辞典の語義解説を参考にする。

・ MINIDictionary 82

・ EXERCISES 85

## PART 4 名詞用法になじむ ----- 91

◇とくに動詞と名詞をかねている単語を取り上げ、名詞用法に焦点をあてることによって語彙の増強をはかる。

・ MINIDictionary 108

・ EXERCISES 110

## PART 5 動詞用法になれる ----- 115

◇名詞用法になじんでいる単語の動詞用法に焦点をあてることによって、語彙の増強をはかる。

・ MINIDictionary 133

・ EXERCISES 136

## PART 6 副詞に熟達する ----- 141

◇副詞の意味を正確につかむ練習をする。必要に応じて、形容詞⇔副詞の視点から意味を検討する。

・ MINIDictionary 157

・ EXERCISES 160

## PART 7 動詞をきわめる ----- 165

◇動詞の多彩な意味・用法の広がりを目を向けるとともに、和訳という作業についても考えてみる。

・ MINIDictionary 185

・ EXERCISES 188

## PART 8 あいまいな語 ----- 193

◇イメージのあいまいになりがちな単語を取り上げて、正確な意味をさぐる。後半では、いくつかの助動詞をくわしく検討する。

・ MINIDictionary 212

・ EXERCISES 215

索引 ----- 218

# PART 1

---

## 動詞に習熟する



もっとも基本的な動詞を取り上げて、その多彩な意味・用法をくわしく検討してみることにします。

▷この単語はむずかしいとか、この単語はやさしいとかよくいいます。では、むずかしさや、やさしさの基準はいったいどこにあるのでしょうか。

▷たとえば、**take**と**deceive**という単語。もしあなたが**take**よりも**deceive**のほうがむずかしいと考えているとしたら、あなたはく試験英語中毒〉にかかっているおそれがあります。英語の先生は「この単語はむずかしいから覚えなくてもよい」などとよくいいます。たぶん、試験には役立たない単語だからそういうのでしょう。

▷試験英語というタコツボから抜け出てもっと広い視野から英語をながめてみると、むずかしさに対する見方が逆転します。

▷先生がむずかしいという単語は、実はやさしい単語のことなのです。なぜって、**deceive**は「だます」だけでかたづきますが、**take**は「とる」だけでかたづけるわけにはいかないからです。

▷まずは、簡単にかたづけることのできない、基本的な動詞のさまざまな意味・用法を眺望してみることにしましょう。

## ►take

---

(01) It would **take** a scientist to commit such a crime.

(02) She **takes** *the Times* \*.

(03) Don't believe him. He's **taking** you!

【和訳と語注】(01)このような罪を犯すには科学者が必要だろう。

(02)彼女は『タイムズ』を購読している。(The Times: 英国の新聞『タイムズ』)

(03) 彼の話信じちゃいけないよ。だましているんだから。

---

典型的な多義動詞のひとつ、takeの用法を3つだけ取り上げてみました。

時間やお金が「かかる」、勇気や忍耐などを「必要とする」というときのtakeの用法はご存じですね。ただしこのtakeは(01)のように人を目的語にとることもできます。「けんか両成敗」にあたる次の諺も参考にしてください。

●It **takes** two to make a quarrel.

(けんかをするには2人必要だ)

(02)のtakeは、とくに新聞を定期的買って読むことを意味します。

(03)のtakeはくだけた用法で、deceive「だます」の意味です。普通は、take inという句動詞が用いられます。文脈から類推がつくとはいっても、これがわかった読者の単語力はまちがいになく上級レベルにあります。

## ►make

---

(04) John will **make** a good teacher.

(05) The tree **made** a good, thick covering to protect them from the dew. —L. Frank Baum, *The Wizard of Oz*

【和訳】(04) ジョンは立派な先生になるだろう。

(05) 木は彼らを露から守ってくれる、立派な厚いおいおいとして役立ちました。——『オズの魔法使い』より。(引用文中の太字は筆者による。日本語による翻訳があるときには、初出時のみ邦題名を記す)

---

(04) の **make** は「～になる」という意味です。become とちがうのは、必要な資格や素質が備わっているというニュアンスが含まれているところです。用例をあげておきます。

● He has the shoulders of an ox and he'd **make** a splendid bodyguard. —Dick Francis, *The Danger*

(彼は牡牛のような肩をしているので素晴らしいボディガードになるだろう。——『危険』より)

(05) の **make** も「(おいおい) になった」としてもおかしくないのですが、正確には **serve as** 「～として役立つ」の意味になります。

## ► **work**

---

(06) He **works** his employees very hard.

【和訳】(06) 彼は従業員をこき使う。

---

動詞 **work** というと、次のような自動詞の用法をまず最初に思い浮かべるのではないのでしょうか。

● She **works** very hard.

(彼女は大変よく働く)

● The washing machine doesn't **work**.

(洗濯機が動かない)

(06)のworkはmake someone work「人を働かせる」の意味で、他動詞として用いられています。もちろん次の例文のように、働かせるのは人ではなく、機械であってもかまいません。

●Do you know how to **work** this machine?

(この機械の動かし方を知っていますか)

## ►pay

---

(07) It is very difficult to make this business **pay**.

【和訳】(07)この商売をもうかるようにするのは大変むずかしい。

---

このpayは自動詞で「利益になる」の意味です。私たちが「ペイする」「ペイしない」というときには、英語の用法を正しく踏まえているといえるでしょう。

ただし、英語のpayはかならずしも金銭的な利益だけに用いられるわけではありません。次の例文も参考にしてください。

●Crime doesn't **pay**.

(犯罪は割に合わない)

## ►help

---

(08) When you've got a bad hangover\*, take a hot bath. It **helps** a lot.

【和訳と語注】(08)ひどい二日酔いのときには熱い風呂に入りなさい。ずいぶん効き目があります。(hangover「二日酔い」)

---

このhelpも自動詞で、好ましくない状況を改善するのに「役立つ」というような文脈で用いられます。同じ用法の例文をあげておきます。

●She had her hair cut short to make herself look younger, but it didn't **help**.

(若く見せるために彼女は髪を短く切ってもらったが、効果はなかった)

英和辞典は、自動詞用法→他動詞用法、他動詞用法→自動詞用法のどちらかの順序でまとめて動詞を記述しています。そこで、どうしても後に記述される用法（記述される量も少ない）がおろそかになります。

## ▶ **help**

---

(09) I'll never see her again if I can **help** it.

【和訳】(09) そうしないですむなら、彼女には二度と会いません。

---

このhelpがavoid「避ける」の意味だということはご存じですね。ただ、たいていの人がcannot help v-ingの形で最初にこの用法にお目にかかるのではないのでしょうか。受験英語で珍重される構文だからです。[★ v-ingは動詞の-ing形を表わします]

公式にとらわれると普通の用法が盲点になります。例文をひとつあげておきます。

●It can't be **helped**.

(それはどうしようもない)

## ▶ **put**

---

(10) You can **put** it that way, if you like.

【和訳】(10) そういいたいければ、そういつてもかまいません。

---

putには「いう」「表現する」という意味があります。ただし、「ど

のように」というく様態を表わす表現がともないます。(10)では **that way** 「そんなふうに」がその表現に相当します。

例文をあげておきます。

● **To put it briefly, you cannot have your cake and eat it.**

(端的に言えば、お菓子は食べればなくなるのです)

**to put it briefly**は、決まり文句として覚えておくといいでしょう。**you cannot**以下は諺で、諺を利用して「いいことを2つ同時にすることはできない」という考えを簡潔に述べています。

## ► **reach**

---

(11) **She reached down and picked up the shoes.**

【和訳】(11)彼女は手を下に伸ばして靴を拾い上げた。

---

この**reach**は「手(腕)を伸ばす」という意味です。手を伸ばす方向や場所を明らかにするために、**down**のような副詞や**into**などの前置詞をとともなうことがあります。

さらに「～をとろうとして手を伸ばす」という場合には、前置詞**for**がきます。副詞と前置詞の組み合わせが少々やっかいなのですが、次の2つの例文をよく研究してください。最初の例文の**down**は省略してもかまいません。

● **He reached (down) for his gun.**

(彼は銃をとろうとして手を[下に]伸ばした)

● **She reached into her bag for her lipstick.**

(彼女は口紅をとろうとしてバッグの中に手を入れた)

なお、**reach someone something**という構文では「人に物をとってやる」という意味になります。

● **Could you reach me that book from the top shelf?**

(いちばん上の棚からその本をとってもらえませんか)

## ► reach

---

(12) Where the devil\* have you been, Mary? I've been trying to **reach** you all morning.

【和訳と語注】(12)いったいどこに行ってたんだい、メアリー。午前中ずっと連絡をとろうとしてたんだよ。(the devil: 強意の表現で「いったい」)

---

reachにはget in touch with「～と連絡をとる」の意味があります。とくに、電話で連絡をとる場合に用いられます。

## ► break

---

(13) We **broke** our journey in London.

(14) It was Mary who **broke** the silence.

(15) She decided to **break** the news to her husband after dinner.

【和訳】(13)私たちはロンドンで途中下車した。

(14)沈黙を破ったのはメアリーだった。

(15)彼女は夕食後にその知らせを夫に知らせることにした。

---

breakのそれぞれちがう用法を3つまとめて取り上げました。

(13)のbreakはinterrupt「中断する」の意味で、break one's journeyで「途中下車する」となります。

(14)のbreakはput an end to「～を終わらせる」の意味で、次の例文中のbreakも同じ用法です。

●It's very difficult to **break** the habit of smoking.

(喫煙の習慣を断つのは大変むずかしい)

(15)の**break**は、知らないという人がたくさんいるかもしれません。「知らせる」という意味で、とくに好ましくないことを知らせるときに用いられます。

## ► **catch**

---

(16) She **caught** him in bed with a young blond woman.

【和訳】(16)彼女は彼が若い金髪の女と寝ているのを見つけた。

---

**catch**は「見つける；目撃する」の意味で用いられることがあります。人が悪いことをしているのを見つけたという文脈で使用されるのが普通です。

次の例文のように〈**catch**＋目的語＋**v-ing**〉の構文をとることもあります。**see**を用いた同じ構文の例文とも比較研究しておきましょう。

●I **caught** him **taking** money from my purse.

(彼が私の財布からお金をとっているのを見つけた)

●I **saw** him **walking** across the street.

(彼が通りを横切っているのが見えた)

## ► **call**

---

(17) At the head office in Tokyo, an emergency meeting had been **called**.

【和訳と語注】(17)東京本社では、緊急会議が召集されていた。(an emergency meeting 「緊急会議」)

---

call a meetingで「会議を召集する」になります。(17)では受け身の過去完了になっているので、「召集されていた」と訳しました。

¶ call the Diet 「国会を召集する」

なお、次のような用例もcallの同じ語義(「あることがある時に起きるように手筈をととのえる」という)に属すると考えることができます。ただし、辞書によっては異なる語義として扱っているものもあります。

●He **called** a press conference to announce his engagement.

(彼は婚約を発表するために記者会見を開いた)

●The union **called** a general strike.

(組合はゼネストを指令した)

## ▶ study: mean

(18) He **studied** her face and said, “Do you really **mean** it?”

【和訳】(18)彼は彼女の顔をじっと見てからいった。「本気でそういつてるのかい」

studyは学科を目的語にとると、「学ぶ」「研究する」という意味になります。¶ study law 「法律を学ぶ」

この動詞にはexamine something very carefully「何かを大変注意深く調べる」という意味もあり、けっしてめずらしい用法ではありません。次の例文も参考にしてください。

●The driver stopped his car and **studied** a road map.

(運転手は車を止めて道路地図をよく調べた)

meanという動詞の使い方にも習熟しましょう。(18)では、あることを冗談ではなく「本気でいう」という意味になります。例文を